

ぼむ・ぼむ通信

No.52

生協の組合員と日本ユニセフ協会を結ぶネットワーク通信「ぼむぼむ通信」は、生協組合員のボランティアグループで発行・編集をしています。生協のユニセフ支援活動に積極的にご活用ください。



©日本ユニセフ協会/2011/K.Shindo



©日本ユニセフ協会/2011/Grehan



©日本ユニセフ協会/2011

~東日本大震災支援から~

ぼむ・ぼむ通信 52号

目次

東日本大震災支援 日本ユニセフ協会支援報告 ~子どもたちに心のケアを~	1
世界の子どもたちは今 東日本大震災	5
生協のユニセフ支援活動 東日本大震災支援 ~ユニセフと連携した取り組み~	6
(みやぎ生協、いわて生協、神奈川県生協連)	
インドネシアスタディツアー報告	7
2010年度生協のユニセフ募金集計結果	8

ぼむぼむ通信 活用のすすめ

- すべてのページをコピーしなくても、「知っとこ。ユニセフ」や「世界の子どもたちは今」を集めて、資料として活用いただけます。
- ユニセフのつどいやユニセフ展、学習会の際に、資料としてご活用いただけます。
- 店舗の募金箱の近くに置いて、生協のユニセフ活動を紹介する際にご活用いただけます。
- 生協の管理している文化センターなど、共用施設の雑誌コーナーなどにもご活用いただけます。
- 写真のコンテンツも充実しているので、カラーコピーでの使用をおすすめします。



東日本大震災

日本ユニセフ協会支援報告 ~子どもたちに心のケアを~



©日本ユニセフ協会/2011

岩手県釜石小学校に設置された「子どもに優しい空間」

2011年3月11日午後2時46分頃に起きた東北沖でのM9.0の地震と津波による未曾有の被害を受けて、日本ユニセフ協会は、2011年3月14日に被害地域への支援を準備し、東日本大震災緊急募金の受付を開始しました。また、同日、ユニセフのアンソニー・レーク事務局長は声明を発表し、日本人びとがこれまで継続的に行ってきました弱い立場の子どもたちと家族への支援に改めて感謝を表した上で、ユニセフは困難に見舞われている日本の人々に対していかなる支援も行う準備があると述べました。ユニセフによる日本の子どもたちへの支援が実施されるのは、第2次世界大戦直後の昭和24年から15年間続いた「脱脂粉乳」などの支援や、昭和34年の伊勢湾台風被災地への支援以来、約50年ぶりになります。



地震発生から3ヶ月 - 最新レポート



日本ユニセフ協会は当座の活動資金として国内事業費から準備した1億円を元に、協力企業による寄贈や購入協力による飲料水や子ども用の肌着などの緊急支援物資を、被災地の地方自治体、生協やパートナー団体などの協力を得て岩手、宮城、福島などで避難生活を送られている被災者の方々に提供しました。この活動に並行して、妊娠・授乳中の女性や乳幼児に対する医療保健・栄養面での支援、被災した子どもたちの「心のケア」の拡充、及び新学期を迎える小・中学校に対する学用品の支給を含めた教育支援(バック・トゥ・スクール)などを国内の専門家団体などと連携して、展開しています。

日本ユニセフ協会の緊急支援活動

緊急支援物資の提供

緊急支援活動開始当初より、被災された方々が必要としているミネラルウォーター、子供用肌着、衣服、靴などの救援物資を提供しました。これらの救援物資の中には協力企業からの寄贈品も多く含まれています。



©日本ユニセフ協会/2011
支援物資を積み込むトラック

教育支援 ~バック・トゥ・スクール(学校へ戻ろう)キャンペーン



©日本ユニセフ協会/2011
ユニセフの文房具セットを受け取った長内小学校の子どもたち

宮城・岩手両県の被災地の子どもたちが新学期に学校生活に戻る事ができるよう、2万人を超える子どもたちに当座必要な文房具などの学用品を、またパソコンやプリンターなど先生方が必要とする器具類、学校再開に必要な机・椅子などの備品についても100校を超える小中学校に提供しています。また、小中高校に較べて支援が限られている幼稚園等の活動再開に向けてバック・トゥ・幼稚園(幼稚園へ戻ろう)キャンペーンを展開し、食器や家具、知育玩具などの個別のニーズに対応する他、地域のモデル

になるような子どもたちが安心して生活できる環境や施設を持った「子どもに優しい幼稚園・保育園」の建設支援も準備中です。

子どもたちの栄養支援

被災地の子どもたちの間の栄養問題改善のため、これまでに、宮城県内でサプリメント食品などの企業からの現物寄付を活用し緊急対策を実施しました。今後も、子どもたちの間に栄養の偏りなどによる問題が生じないよう、栄養実態調査への支援や学校給食の完全復旧など、予防に重点を置いた支援を実施する予定です。



お母さんと赤ちゃんの保健・栄養支援



©日本ユニセフ協会/2011
赤ちゃん検診の様子

宮城・岩手両県の災害対策本部に対する技術支援や、地域の病院、診療所、保健所などに巡回診療用車両35台を提供。医療施設・制度が壊滅的な被害を受けた地域で、母乳育児の促進を含めた産前産後の検診や子どもたちの予防接種などが可能な限り定期的に実施されるよう、国内の専門家団体と連携。常時20名を超える医師や看護師などが宮城、岩手、福島各県で活動し、高度な医療支援を必要とするお母さんや赤ちゃんの照会制度の確立も行っています。



子どもの心理ケアと保護

全国のみなさまから寄贈いただいた絵本や児童書、紙芝居などで作る「ちっちゃな図書館」を、被災地の子どもたちのケアを実践されている施設などに提供しています。これまでに避難所や保育園、幼稚園など650箇所以上に13万冊が送られました。また子どもたちの心のケアのために「箱の中の幼稚園」や「レクリエーションキット」を被災地で配布し、子どもたちが安心できる場所=「子どもにやさしい空間(Child-Friendly Space)」を設置しました。さらに、ボランティアや先生方、お母さん・お父さん方に「遊びを通じた心のケア」に関する研修の機会を提供。これまでに100名を超える方々への研修を実施しました。



©日本ユニセフ協会/2011
「ちっちゃな図書館」の絵本セットを開く子どもたち



©UNICEF/NYHQ2009-1037/Marki
箱の中の幼稚園

(日本ユニセフ協会 HP 「日本ユニセフ協会 緊急支援活動計画 2011年4月26日現在」より抜粋・編集

http://www.unicef.or.jp/osirase/back2011/1104_04.htm)



遊びを通じた心のケア

ユニセフは、子どもたちの心と体のケアを最優先に配慮し、全力を挙げて支援に取り組んでいます。本号では「遊びを通じた心のケア」に関する活動についてご紹介します。

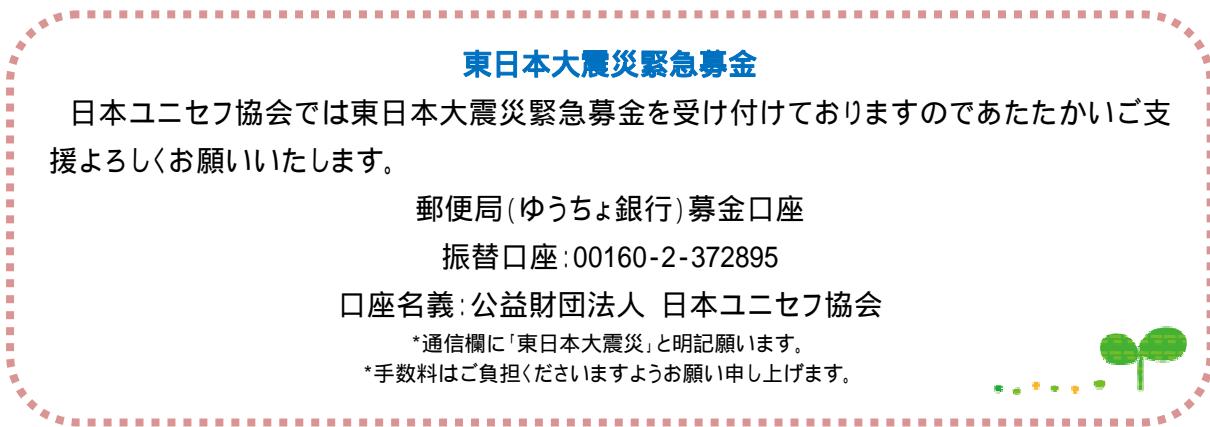
日本ユニセフ協会は、東日本大震災で被災した未就学児をケアする教職員や保護者を対象に、日本プレイセラピー協会との共催で、5月29日(日)と5月30日(月)の2日間にわたり、宮城県内の保育園、幼稚園でのプレイセラピー研修を実施しました。

日本ユニセフ協会は、震災直後から被災した子どもたちへの心のケアの重要性を訴え、その支援に取り組んできました。避難所などで子どもたちに接するボランティアの方々に対し、ユニセフが世界的に使っている被災直後の子どもたちへの接し方マニュアル(行動倫理規定)などを使った研修や、再開された保育園に園児たちが戻る時期には、先生や保護者を対象に遊びを通じた心のケア(プレイセラピー)の研修を実施してまいりました。これまで、プレイセラピー研修を受けた教職員や保育士、ボランティアの方々からは、「震災の後、子どもたちへの接し方が分からず、戸惑っていたので、研修を受けてよかったです」「他の園との情報共有がなかなかできなかったので、今日それぞれの園の悩みが聞け、自分ひとりではないと安心した」という感想が寄せられています。

(日本ユニセフ協会 HP 「東日本大震災緊急募金 第64報」より抜粋・編集
http://www.unicef.or.jp/kinkyu/japan/2011_0527.htm)

大規模な自然災害の被災地でもっとも弱い立場に置かれ、辛い思いをするのは子どもたちです。今回の大震災で、多くの尊い命が奪われただけでなく、多くの子どもたちが家族や親しい友人と離れ離れになり、地震や津波の恐ろしい体験をして心に深い傷を負っています。日本ユニセフ協会は、ユニセフ本部と東京事務所、支援団体・企業と協力しながら、被災地の子どもたちを守り、必要とされる支援を提供していきます。「ぽむぽむ通信」では支援の情報をこれからも伝えていきたいと思いますので引き続き今回の地震で被災した子どもたちとその家族への応援をお願いします。

2011年6月8日



東日本大震災緊急募金

日本ユニセフ協会では東日本大震災緊急募金を受け付けてありますのであたたかいご支援よろしくお願ひいたします。

郵便局(ゆうちょ銀行)募金口座

振替口座:00160-2-372895

口座名義:公益財団法人 日本ユニセフ協会

*通信欄に「東日本大震災」と明記願います。

*手数料はご負担くださいようお願い申し上げます。





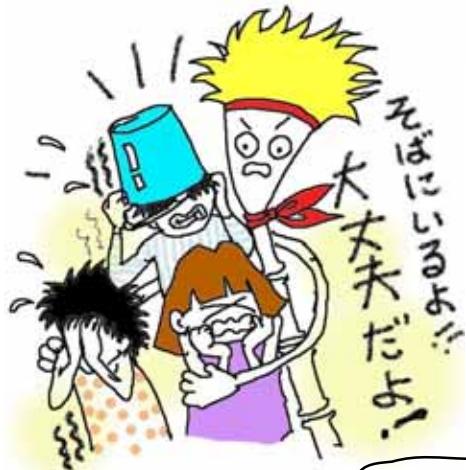
世界の子どもたちは今

日本

2011年3月11日

東日本大震災

ユニセフが東日本大震災の緊急支援を決定！



おじいちゃんが子どもの頃
もユニセフの支援をうけた
んでしょう？

そうじゃ。
第二次世界大戦直後の何も無い
時代に、粉ミルクと衣類などを支援して
もらったんじゃ。それから昭和34年の
伊勢湾台風の時の支援以来、今回は
約50年ぶりの事じゃよ。



地震や津波で恐ろしい
体験をして、なかには家族や
友達を亡くした子どもたちもいて、
心に深い傷を負っているんだ。



こういう時は
『遊ぶ』のが一番！！
走り回ったり、絵を描いたり
普通の日常生活を取り戻すことが
心のケアにつながるんだよね！

はい！ユニセフは子どもたち
の心と体のケアを最優先に考え
て、全力で支援しているんで
すよ！



初期の支援は・・・

物資支援



人的支援



子どもの教育支援



箱の中の幼稚園

箱の中の学校

ユニセフ
ちっちゃな図書館

お母さんと赤ちゃんの保健・栄養支援

赤ちゃんの栄養ホットライン



うがい・手洗い・感染予防



子どもの保護支援

子どもにやさしい空間



ユニセフ子どもバス遠足



「遊びによる心のケア」
の講習会



これからも長～く一緒に支えて行くことが大切なんだ



生協のユニセフ支援活動 Partner ship



東日本大震災支援 ~ユニセフと連携した取り組み~



みやぎ生協 ~教材などを配達~



ユニセフは、被災地の各学校を訪問し、地震・津波で失ってしまった児童生徒の学用品や教材教具・学校備品等必要とされるものを聞きとり、みやぎ生協ではその支援物資の手配準備や学校への配達を行いました。

4月8日には女川町の小中学校へ第1弾として届け、4月12日の始業式・入学式で贈呈を行いました。また、4月16日には気仙沼、石巻、七ヶ浜、名取の学校計41校に約4,000名の児童生徒分をお届けしました。



いわて生協 ~緊急物資やおやつをお届け~

日本ユニセフ協会が集めた物資を、岩手で被災した子どもたちに送るお手伝いを岩手県生協連が行うことになりました。3月24日、第一弾として子ども用肌着ショーツ3万枚を県内6ヶ所(釜石市・大船渡市・陸前高田市・宮古市・山田町・大槌町)に配達しました。いわて生協には全国の生協から支援のトラック(共同購入のトラックと運転手)が集まり、その皆さんにお願いして、各被災地の物資センターに配達しました。



また、市内の幼稚園、保育所に、ユニセフ協会が提供する「おやつ」を届けています。



神奈川県生協連 ~絵本の仕分け作業に協力~

「ユニセフちっちゃな図書館プロジェクト」は日本ユニセフ協会の呼びかけでスタートした被災地の子どもたちへ本を届ける活動で、神奈川県ユニセフ協会では集められた本の仕分け・箱につめる作業を行いました。コーポかながわ、パルシステム神奈川ゆめコーポからも役職員や組合員が仕分け作業に参加しました。仕分けを終えた本は東日本大震災で避難を余儀なくされている全国の被災者へ順次届けられました。





ユニセフ インドネシアスタディツアーレポート

パンダ・アチエ(インドネシア)～津波から6年～

2011年2月27日～3月6日

インドネシア スタディツアーレポートに参加いたしました。

正式名インドネシア共和国 面積は日本の約5倍で1万数千もの島々からなる群島国家です。人口は約2億3751人(2008年)中国・インド・アメリカに次ぎ 世界第4位。

国民の87パーセントはイスラム教徒で 訪れたアチエの町でも大・小の多くのモスクを見かけました。時間になると祈りの声が響いていました。



ボランティア 山本直子

パンダ・アチエとクパン2箇所を訪問しました

「保健センター」「乳幼児発育センター」「学校」「少年裁判所」「子どもに優しい村」などユニセフの援助事業を見てきましたが 2004年12月26日 津波により甚大な被害を受けたパンダ・アチエの復興の様子を視察するのが目的の1つでもありました。ツアーからの帰国数日後に あの東日本大震災の津波の恐ろしい映像を実際に目にすることになるとは… 夢にも思いませんでしたが。

アチエ州の被害

17万人死亡 50万人が家をなくす 8病院 41保健所 59ヘルスセンター 44総合サービスセンター 240村の配送センターが破壊 そして 2000以上の学校が激しく損傷 あるいは破壊されました。



瓦礫の様子の写真



シロン墓地 芝生の下に7万人の身元不明のご遺体が眠る

ユニセフの対応

345の学校・156の総合ヘルスセンター 建設援助。水処理場の建設・修理援助。積極的に予防接種プログラムの復興を支援し 医師・助産師・教師・社会福祉士の能力・スキル開発を提供。

また ユニセフの技術援助を通して 改善された少年裁判システムや子どもの保護法の法律設定 戰略的健康計画の立案など 新しい政策が開発されました。

津波以前はスタッフ2名だったユニセフ・アチエ現地事務所は 津波直後は 250名 4箇所の事務所で対応。現在は約30名のスタッフが「水と衛生」「教育」「栄養」などのそれぞれ専門分野を担当。パートナーである政府・政府機関、地方自治体、NGOなどと連携しながら 各種プロジェクトに臨んでいるようすが伺われました。

「もとに戻す」だけでなく「以前より住みよい環境をつくる」「BACK BETTER」との 言葉が胸に残りました。



2600トンの大型船。海岸から2キロの道路上に



大型船上から見た 現在の町の様子

2010年度ユニセフ募金集計報告

全国の生協が組合員に協力を呼びかけて集約された 2010 年度のユニセフ募金は、一般募金、緊急募金、指定募金を合わせて、2 億 7 千万円となりました。全国の生協の募金額集計を開始した 1983 年からの累計総額は、約 70 億 8 千万円となりました。ご協力ありがとうございました。

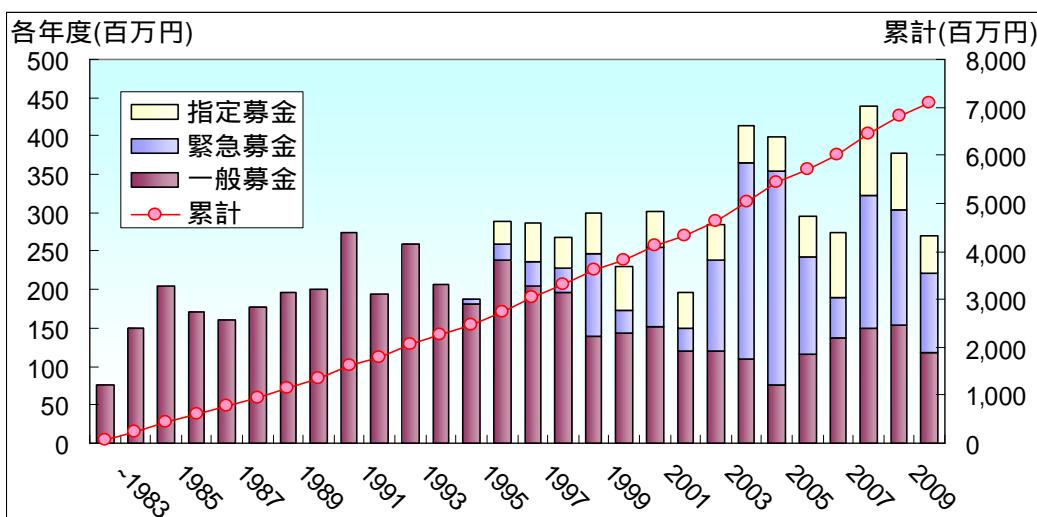
2010 年度の一般募金は、約 1 億 1 千 8 百万円でした。指定募金は、コープネット事業連合やユーコープ事業連合の牛乳(コープ商品)の購入を通じた募金、地域ごとに取り組まれているラオスやネパールへの募金等で、約 4 千 9 百万円が寄せられました。なお、2010 年度からは、コープさっぽろ(ブータン)と日本生協連(アンゴラ共和国)でも指定募金を開始しています。

全国の生協のユニセフ募金内訳(2010 年度・2009 年度)

(単位:円)

募金種別		2010年度	2009年度
一般募金計		118,163,791	154,490,333
指定募金計		49,837,317	72,036,093
指定 募 金	ネパール(女性と子どものための地域開発)	9,897,144	15,842,404
	ラオス(女の子と女性の立場向上)	14,445,407	16,505,071
	モザンビーク(栄養プログラム)	16,348,892	22,597,500
	マラウイ(教育支援)	4,972,902	5,000,000
	モルディブ(栄養と環境改善)	4,172,972	0
	ラオス(人身売買から子どもたちを守る)	0	11,156,591
緊急 募 金	HIV/AIDSクローバルキャンペーン	0	934,527
	緊急募金計	102,932,817	150,283,956
	フィリピン台風	70,274	17,920,499
	スマトラ沖地震	186,677	18,482,156
	サモア地震津波	23,344	14,051,369
	ハイチ地震	57,658,785	91,609,234
	パキスタン人道支援	15,362,101	4,157,119
	自然災害	19,011,361	1,653,889
	アフガニスタン人道支援	3,950,673	0
	中東・北アフリカ緊急	529,665	0
	人道危機緊急	1,250	0
	東日本大震災	6,138,687	0
	スマトラ沖地震津波	0	69,834
	アフリカ緊急募金	0	7,298
	ガザ人道支援緊急募金	0	1,718,458
	ミャンマーサイクロン	0	614,100
総合計(+ +)		270,933,925	376,810,382

1983 年からの全国の生協のユニセフ募金額(单年度、累計)



1983 年～1994 年までの募金種別内訳は不明

ぼむぼむ広場

編集後記

「ちっちゃな図書館」プロジェクトで全国の皆さまから絵本をお寄せいただいた時に、絵本が入った段ボール箱をトラックに積むお手伝いをしました。その段ボール箱の多くに被災した子どもたちへのあたたかいメッセージが書かれていて、全国の皆さまの愛情と「子どもたちのために何かしたい」という気持ちを強く感じました。皆さまの想いが詰まった「ちっちゃな図書館」は被災地の子どもたちを今日も笑顔にしています。(石)

宮城県における緊急支援活動は、教育、保健・栄養、子どもの保護など、震災直後から様々なプログラムを行政、企業、団体などと力を合わせて実施しています。被災地の子どもたちが一日も早く心から笑える日を迎えることができるよう、また、被災しながらも支援団体を気遣ってくださる方々のためにも、微力ではありますが出来る限りのことをしたいと思います。(現地支援に入っている@より)

ユニセフ*コープネットワーク



No.52 2011年6月15日発行

編集 グループ ぼむ・ぼむ

スタッフ・編集 / 相澤・尾澤・谷杉・浜崎・福本・
藤森・松本・山本・石尾・朝倉

イラスト / 蛭沢

発行 日本生協連 組合員活動部

〒150-8913

東京都渋谷区渋谷 3-29-8 コーププラザ 11F

TEL03-5778-8124 FAX03-5778-8125

ホームページ <http://jccu.coop/unicef/>

ぼむぼむ通信第52号をお届けします。

この度の東日本大震災で被災された皆さんに心よりお悔やみとお見舞いを申し上げます。52号は、震災へのユニセフの支援、生協とユニセフが連携した活動をご紹介します。また、インドネシアスタディツアの報告、2010年度全国の生協の募金集計を掲載しています。

全国の活動事例や、ぼむぼむ通信の感想・ご意見をお待ちしております。

次号は、2011年9月15日発行予定です。